

# 四半期報告書

(第44期第3四半期)

自 2023年10月1日

至 2023年12月31日

**株式会社 ラウンドワン**

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 2
- 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 2
- 3 経営上の重要な契約等 ..... 2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 3
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 3
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 3
- (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 3
- (5) 大株主の状況 ..... 3
- (6) 議決権の状況 ..... 4

#### 2 役員の状況 ..... 4

### 第4 経理の状況 ..... 5

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 ..... 6
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ..... 8
  - 四半期連結損益計算書 ..... 8
  - 四半期連結包括利益計算書 ..... 9

#### 2 その他 ..... 13

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 14

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月13日
【四半期会計期間】	第44期第3四半期（自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	株式会社ラウンドワン
【英訳名】	ROUND ONE Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 杉野 公彦
【本店の所在の場所】	大阪市中央区難波五丁目1番60号
【電話番号】	(06) 6647-6600 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員管理本部長 佐々江 慎二
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区難波五丁目1番60号
【電話番号】	(06) 6647-6600 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員管理本部長 佐々江 慎二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第3四半期 連結累計期間	第44期 第3四半期 連結累計期間	第43期
会計期間	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2023年4月1日 至2023年12月31日	自2022年4月1日 至2023年3月31日
売上高 (百万円)	101,384	113,393	142,051
経常利益 (百万円)	8,816	13,232	16,690
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	6,112	9,541	9,737
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,951	10,918	11,616
純資産額 (百万円)	60,975	63,231	61,180
総資産額 (百万円)	163,288	177,019	170,623
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	21.31	35.29	34.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	21.30	35.24	34.01
自己資本比率 (%)	37.2	35.5	35.7

回次	第43期 第3四半期 連結会計期間	第44期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自2022年10月1日 至2022年12月31日	自2023年10月1日 至2023年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	3.03	6.51

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 当社は、2022年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、第2四半期連結会計期間において、Kiddleton, Inc. は株式を譲渡したため、持分法適用の範囲から除外しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢の改善や、賃上げの影響により個人消費を中心に緩やかな回復基調が見られました。

他方、世界経済においては、プラス成長を維持しているものの減速傾向にあり、依然として世界情勢等の影響を注視する必要がある状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは日本において、引き続き一部店舗の「ギガクレーンゲームスタジアム」への改装を順次行ったほか、アーティストやアニメ等との期間限定コラボキャンペーンやテレビコマーシャルの全国放送を実施し、業績向上に努めました。また、昨今の経済状況を勘案しボウリング・スポッチャにて料金の見直しを実施しております。

米国においては、営業基盤を拡大すべく、新たに2023年12月にアローヘッド店（アリゾナ州）をオープンいたしました。その他、引き続き「Mega Crane Zone」への改装をはじめとしたアミューズメント機器の積極的な導入を行っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高113,393百万円（前年同四半期比11.8%増）、営業利益13,354百万円（前年同四半期比50.1%増）、経常利益13,232百万円（前年同四半期比50.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益9,541百万円（前年同四半期比56.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (日本)

引き続き一部店舗の「ギガクレーンゲームスタジアム」への改装を順次行ったほか、アーティストやアニメ等との期間限定コラボキャンペーンやテレビコマーシャルの全国放送を実施し、業績向上に努めました。また、カラオケにおきましてはJOYSOUNDの新機種となる「JOYSOUND X1」を導入し、ボウリング・スポッチャにおきましては昨今の経済状況を勘案し料金の見直しを実施しております。

以上の結果、ボウリングは前年同四半期比10.8%増、アミューズメントは前年同6.4%増、カラオケは前年同19.2%増、スポッチャは前年同18.8%増となりました。

#### (米国)

営業基盤を拡大すべく、新たに2023年12月にアローヘッド店（アリゾナ州）をオープンいたしました。その他、引き続き「Mega Crane Zone」への改装をはじめとしたアミューズメント機器の積極的な導入を行っております。

以上の結果、ボウリングは前年同四半期比1.5%増、アミューズメントは前年同14.2%増、カラオケは前年同16.1%増、スポッチャは前年同13.7%増となりました。

#### (その他)

その他の事業セグメントにおいては、中国にアミューズメント施設の出店準備を進めるとともに、ラウンドワンデリシャスの事業展開準備を行っております。

#### (2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、又は、締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	749,100,000
計	749,100,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	287,436,942	287,456,742	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	287,436,942	287,456,742	—	—

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2024年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年10月1日～ 2023年12月31日(注)	78,300	287,436,942	23	25,350	23	6,584

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等) (注) 1	普通株式 18,092,600	—	—
完全議決権株式 (その他) (注) 2	普通株式 269,226,400	2,692,264	—
単元未満株式 (注) 3	普通株式 117,942	—	—
発行済株式総数	287,436,942	—	—
総株主の議決権	—	2,692,264	—

(注) 1. 「完全議決権株式 (自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

2. 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が13,400株 (議決権の数134個) 含まれております。

3. 「単元未満株式」の株式数の欄には、当社保有の自己株式46株及び証券保管振替機構名義の株式40株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社ラウンドワン	大阪市中央区難波五丁目1番60号	18,092,600	—	18,092,600	6.29
計	—	18,092,600	—	18,092,600	6.29

## 2 【役員 の 状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,106	30,513
売掛金	1,679	2,494
商品	429	449
貯蔵品	3,374	4,299
その他	4,149	4,291
流動資産合計	38,739	42,048
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	94,648	98,055
減価償却累計額	△52,459	△55,892
建物及び構築物（純額）	42,188	42,162
土地	5,712	5,712
リース資産	32,255	34,707
減価償却累計額	△14,610	△18,013
リース資産（純額）	17,644	16,694
使用権資産	31,635	34,801
減価償却累計額	△706	△952
使用権資産（純額）	30,929	33,848
その他	56,042	63,901
減価償却累計額	△35,978	△40,595
その他（純額）	20,063	23,306
有形固定資産合計	116,539	121,724
無形固定資産	763	752
投資その他の資産		
繰延税金資産	4,216	2,364
差入保証金	8,693	8,555
その他	1,672	1,575
投資その他の資産合計	14,581	12,495
固定資産合計	131,883	134,971
資産合計	170,623	177,019

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	394	382
短期借入金	800	700
1年内償還予定の社債	342	342
1年内返済予定の長期借入金	6,102	6,194
リース債務	14,599	16,020
未払法人税等	612	1,989
契約負債	2,488	2,634
リデンプションポイント引当金	1,849	2,180
その他	10,638	10,707
流動負債合計	37,828	41,152
固定負債		
社債	628	285
長期借入金	15,696	16,315
リース債務	44,789	45,961
資産除去債務	6,794	6,725
その他	3,705	3,347
固定負債合計	71,614	72,635
負債合計	109,442	113,788
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	25,326	25,350
資本剰余金	26,002	26,026
利益剰余金	7,506	14,555
自己株式	△3,503	△10,004
株主資本合計	55,331	55,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	9
繰延ヘッジ損益	△0	△1
土地再評価差額金	△138	△138
為替換算調整勘定	5,742	7,117
その他の包括利益累計額合計	5,610	6,987
新株予約権	237	315
非支配株主持分	0	0
純資産合計	61,180	63,231
負債純資産合計	170,623	177,019

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	101,384	113,393
売上原価	89,238	96,093
売上総利益	12,146	17,299
販売費及び一般管理費	3,247	3,945
営業利益	8,899	13,354
営業外収益		
受取利息及び配当金	23	38
補助金収入	213	-
為替差益	124	132
持分法による投資利益	109	118
その他	186	211
営業外収益合計	657	501
営業外費用		
支払利息	632	484
その他	108	138
営業外費用合計	740	623
経常利益	8,816	13,232
特別利益		
関係会社株式売却益	-	159
新株予約権戻入益	84	-
受取補償金	-	※ 721
特別利益合計	84	881
特別損失		
固定資産除却損	264	310
減損損失	159	63
特別損失合計	424	373
税金等調整前四半期純利益	8,477	13,739
法人税、住民税及び事業税	618	2,249
法人税等調整額	1,746	1,949
法人税等合計	2,365	4,198
四半期純利益	6,112	9,541
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,112	9,541

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	6,112	9,541
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,803	1,430
持分法適用会社に対する持分相当額	35	△54
その他の包括利益合計	1,838	1,376
四半期包括利益	7,951	10,918
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,951	10,918
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

【注記事項】

(持分法適用の範囲の変更)

持分法適用の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、Kiddleton, Inc. は株式を譲渡したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。これらに基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
貸出コミットメントの総額	16,000百万円	16,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	16,000	16,000

(四半期連結損益計算書関係)

※ 受取補償金

当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

周辺地域の再開発による立ち退きに伴い生じた受取補償金721百万円を特別利益に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
減価償却費	14,758百万円	15,547百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月25日 定時株主総会	普通株式	954	10	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金
2022年11月11日 取締役会	普通株式	1,149	12	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

第2四半期連結会計期間において、新株予約権の権利行使が行われました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金が305百万円増加、資本剰余金が305百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が25,326百万円、資本剰余金が26,002百万円となっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,121	4.00	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金
2023年8月7日 取締役会	普通株式	673	2.50	2023年6月30日	2023年9月6日	利益剰余金
2023年11月10日 取締役会	普通株式	673	2.50	2023年9月30日	2023年12月1日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年2月9日 取締役会	普通株式	942	3.50	2023年12月31日	2024年3月6日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2023年2月10日開催の取締役会決議に基づき、第1四半期連結会計期間において自己株式11,190,300株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が6,500百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が10,004百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上金額 (注) 2
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	63,789	37,017	100,807	577	101,384
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	63,789	37,017	100,807	577	101,384
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	4,143	5,691	9,835	△1,018	8,816

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国 (Round One Entertainment Inc. 及びその連結子会社2社) を除く海外現地法人の事業活動等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上金額 (注) 2
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	70,164	42,012	112,176	1,217	113,393
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	70,164	42,012	112,176	1,217	113,393
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	9,308	4,499	13,807	△574	13,232

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国 (Round One Entertainment Inc. 及びその連結子会社2社) を除く海外現地法人の事業活動等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

## (収益認識関係)

(顧客との契約から生じる収益を分解した情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	日本	米国	計		
売上高					
ボウリング収入	13,500	4,100	17,601	74	17,675
アミューズメント収入	34,178	27,341	61,520	305	61,825
カラオケ・飲食収入	4,733	3,578	8,311	32	8,344
スポッチャ収入	9,030	886	9,917	164	10,081
その他付帯収入	1,816	1,109	2,926	1	2,927
顧客との契約から生じる収益	63,259	37,017	100,276	577	100,854
その他の収益(注) 2	530	—	530	—	530
外部顧客への売上高	63,789	37,017	100,807	577	101,384

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国(Round One Entertainment Inc. 及びその連結子会社2社)を除く海外現地法人の事業活動を含んでおります。  
2. その他の収益には、賃貸収入等が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	日本	米国	計		
売上高					
ボウリング収入	14,962	4,161	19,123	91	19,214
アミューズメント収入	36,375	31,214	67,590	797	68,388
カラオケ・飲食収入	5,643	4,153	9,797	51	9,849
スポッチャ収入	10,727	1,008	11,735	273	12,009
その他付帯収入	1,902	1,473	3,375	3	3,379
顧客との契約から生じる収益	69,611	42,012	111,623	1,217	112,841
その他の収益(注) 2	552	—	552	—	552
外部顧客への売上高	70,164	42,012	112,176	1,217	113,393

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国(Round One Entertainment Inc. 及びその連結子会社2社)を除く海外現地法人の事業活動を含んでおります。  
2. その他の収益には、賃貸収入等が含まれております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	21円31銭	35円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	6,112	9,541
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	6,112	9,541
普通株式の期中平均株式数(千株)	286,819	270,341
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	21円30銭	35円24銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	144	452
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 当社は、2022年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

2023年11月10日付取締役会において、剰余金の配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………673百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………2円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2023年12月1日

(注) 2023年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

2024年2月9日付取締役会において、剰余金の配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………942百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………3円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2024年3月6日

(注) 2023年12月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月9日

株式会社ラウンドワン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高崎 充弘

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河越 弘昭

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ラウンドワンの2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ラウンドワン及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。